

# 和地ひとみレポート No.150

平成27年東大和市議会第1回定例会：

一般質問②『「東大和元気ゆうゆう体操」普及事業の課題について』

一般質問③市の事業の目標設定と部署間連携（横断的な取組み）について



## 目標設定とその共有がもっと必要。

### ■市民と行政のギャップが課題では…

…2月24日から開催されているH27年東大和市議会第1回定例会において、私は以下の3つのテーマについて一般質問をおこないました。

#### ① 新学校給食センター建設について

※この内容の詳細はレポートNo.149に掲載

公共工事を取り巻く環境が大きく変わってきている中での、大事業とも言える『新学校給食センター建設』に関する考え方、方針、市民への説明責任について。

⇒他自治体の入札結果をどのように分析しているのか。

⇒当初予算が大幅に変わることはあるのか。

⇒当初予算が大幅に変わった場合、代替案などは考えているか。

⇒当初予算が大幅に変わった場合、市民に向けての説明をどのように行おうと考えているのか。

#### ②「東大和元気ゆうゆう体操」普及事業の課題について

第10回タウンミーティング「東大和元気ゆうゆう体操」について

⇒参加された市民の皆様の意見から、どのような課題があると考えているか。

⇒また、それらの意見をどのように庁内で活用するのか。

#### ③市の事業の目標設定と部署間連携（横断的な取組み）について

A: 数値目標を設定している事業と設定していない事業がある。

⇒数値目標を設定する、しないの判断基準は何か。

⇒設定した場合、どのような効果があるか考えるか。

B: 今や一つの部署では完結しない事業が多くなっている。

横断的に取り組む事業についての目標の共有はどのように図っているのか。

…1月に開催されたタウンミーティングのテーマは「東大和元気ゆうゆう体操」でした。その際に市民の皆様から出た意見については、以前、このレポートでも取り上げました。市民の皆様がこの体操を好きなこと、この体操の効果を実感していることがとても良くわかった一方で、行政と市民の感覚の違いからくる様々な課題があることもわかりました。

…「東大和元気ゆうゆう体操」の普及に関連した課題の本質を良く考えてみると、この体操の普及に限ったことではなく、行政と市民の考え方、感覚のギャップがそこにはあると思いました。

…行政の事業への取り組み方法の課題については、一般論で取り上げると、議論が抽象的に陥りがちです。

しかし、多くの市民が日常的に感じている行政への「?ハテナ」や、不満の根本には、市民の常識と行政の常識の違いや仕事の進め方の違いなどが根底にあると思います。そのギャップを埋め、改善した先には市政全体の改善があると考えられます。そこで、「東大和元気ゆうゆう体操」普及事業の課題を具体例とし、その先にある市の事業の目標設定、部署間の連携について確認しました。

### ■「市内に広める」の認識の違い

…3年前に発表された「東大和元気ゆうゆう体操」。この体操の発表会はハミングホール大ホールで大々的に行われ、その後も市の様々な行事で発表の場が持たれています。最初に、この体操が介護予防事業の中でどのような位置づけをされているのかを確認しました。「介護予防事業における一次予防事業は健康な方を対象に発病そのものを予防するという取り組みだが、その一次予防事業としてこの体操は位置づけて事業を推進している。そもそもこの体操自体は、二次予防事業の様々な教室に参加された方が、教室終了後にも、身近なところで手軽に介護予防に取り組みたいと要望されたのを受け、市民の皆様と東京都健康長寿医療センター研究所、そして市が協力して制作した介護予防ツールの一つだ。このようなことから、市としては、二次予防事業を終了された方、介護予防に関心のある方などに限らず、年齢を問わず広く市民の皆様を活用いただきたいと考えている」とのことでした。

…市は、この体操を市内に広めていきたいと、様々なところで発していますが、定期的に体操が開催される場所の案内チラシは市内わずか6箇所しか配置していません。多くの方に体操を知っていただき、継続してもらいたいという市の意向と広報活動は合致していない印象です。それについては「この体操を広めたい、普及したいが、その前提として、まず全ての市民の皆様方に体操の存在を知っていただくという必要があると思うと、現在の広報体制はまだ十分ではないと認識している。今後、広報媒体等も含めて研究をしていかなければならないと考えている」との答弁でした。

…また、「市内に広がった。普及した。」という状況はどのような状況か、数値目標はあるのかを確認したところ『広がった』という状態は、究極的には全市民にゆうゆう体操の存在を知っていただくことができた状態ではないかと考えている」とのことでした。（裏面に続く）

…以前、私がこの体操について一般質問で取り上げ、他の自治体が掲げているような目標値というものはないのかと確認した際も、数値目標は掲げずに、良いものだから広めていくという答弁に市は終始していました。

…しかし、タウンミーティングに参加された市民の皆様のご感覚は違います。現在、市内19箇所週に1度程度開催、その参加者は500名程度。介護予防の対象となる年齢の市民の人口から考えると2%程度の参加では広がっているとは言えないのではないかとのご意見がありました。また、体操普及推進委員40名で19箇所を担当し、さらに普及して欲しいと言われても、その方策も示されないで、現場は疲弊しているというご意見もありました。

## ■共有できる具体的な目標が必要では

…市の言うところの「全市民の皆様知ってもらおう」という事が究極の目標だとしても、そこに時間軸がない中、現場で普及を任されている体操普及推進委員の方が気持ち的に疲弊するのは当然です。

…例えば、目指す山が富士山なのか、高尾山なのかで、準備や体制、予算は変わってきます。また、いつまでに何合目までいくのかという目安があれば、そのスピードに合わせた方策も様々具体的に出てくるはず。そして、その目標があるからこそ、1年を振り返っての改善すべき点なども明確になるのです。特に市民と行政が協働で進めていく事業には、共有する目標が必要だと思います。例えばこの体操なら、開催場所を1年で〇箇所増やそうとなれば、そのためには普及推進委員があと何名必要だというような具体的な方策も見えてきます。そういうものが市と市民の体操普及推進委員とで共有できていないから、現場に不満や疲弊が発生すると思います。…この私の意見に対し市では「参加人数をもとにして、普及率などの目標を設定するということが自体はできると思うが、市民で作上げた制作過程を考えると、ノルマ的に目標にするというのは、なかなか難しいと考えている。しかし自主グループの体操開催場所がまだない地区もあるので、当初の目的の『近くで気軽にできる』を達成するために空白地域を埋め、開催場所を何カ所設置するというような目標設定の仕方もあるのではないかと考えている。いずれにしても、この活動を継続するために目標設定を含め、色々と考えていなければならないと思う」との答弁でした。

## ■庁内で共有すべきこと

…この答弁で気になったのが「ノルマ的な目標」という表現。市民協働というなら違和感があります。ノルマ的というと『市がしたいことを市民に請け負ってもらって

っている』ことになると提言させてもらいました。目標を市民とともに作成することも可能です。

…このようにタウンミーティングで出た市民の意見の本質は市民協働に対し多くのヒントになります。タウンミーティングは基本的にテーマを担当する部のみが出席。しかし、今回のようにテーマを基に広がって出てきた市民の意見は、全庁的に共有すべきで、タウンミーティングを統括している企画財政部は、市民の意見から考察できるポイントをまとめて、庁内に共有することも必要。そうしなければ、市民と直接意見を交わした効果が半減します。

## ■数値や明確な目標の必要性

…縦割りではなく部署をまたいで横断的に取り組む事業では情報や目標の共有は欠かせないことです。今回の質問に対する市長答弁では「横断的に取り組む事業についての目標の共有については、個別計画を策定する際には、庁内に検討委員会等を設置した中で、関係部課との連携を図ること、また計画案について各課に意見募集を行うなど情報の共有を図っている」とのことでした。しかし、多くの横断的な計画を見渡すと、計画期間がずれていることもあります。計画内容に齟齬が出てしまっている例も。また、計画によっては目標が明確でなく達成度合いがわかりづらいものもあります。横断的な事業が増えている現状では、今まで以上に情報を共有し「点を線、そして面」にすることで、効率も効果もアップすると思います。

…目標の具体化、明確化の重要性とともに庁内に全体を把握する部署も必要。そして、そこが各部署では気づかないことを見つけ、結びつけるべきです。それに対し市の答弁は「数値目標や関係する部署の連携は行政運営していく中で、ずっと毎日の課題であった。また将来の課題だとも思っている。数値目標については数値を掲げられるものについては設定していくことで、市民への情報提供、説明の際に非常にわかりやすくなると考えている。数値で表せない物もあるが、行政評価や施策の外部評価などの取り組みでチェック、確認を強化したい。連携については、当然のごとく常に市長は『それぞれの職員が気づけ』『いろんなものに気づけ』と言っている。今は各部課で情報を共有し、連携をとらないと、なかなか事業推進はできない。よって連携することは常に頭の中にある。今後の計画の策定、事業推進については、更に取り入れられるものは取り入れていきたい」とのことでした。

…もう縦割り行政は限界です。また、行政も民間的な感覚を持たないと事業推進できません。意識と仕組みで事業をより良く推進して欲しいと要望しました。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

【プロフィール】



1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山奥の小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。／「学校」の外一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク（※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換）に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。その後、人材開発部長を拝命。／『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報などに従事。2011年4月、初当選。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員  
和地 ひとみ

■ 連絡先 和地 ひとみ事務所 HP : <http://www.wachi1103.jp>  
✉ [wachi\\_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp) 【電話・FAX】 042-516-8546  
〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102